

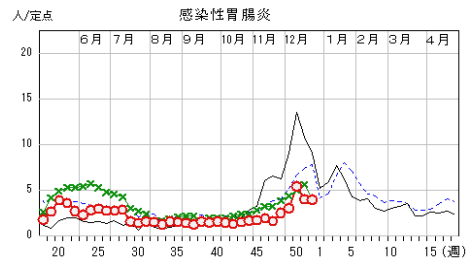
長崎県感染症発生動向調査速報（週報）

2022年第52週 2022年12月26日（月）～ 2023年1月1日（日） 2023年1月6日作成

☆定点報告疾患（定点当たり報告数の上位3疾患）の発生状況

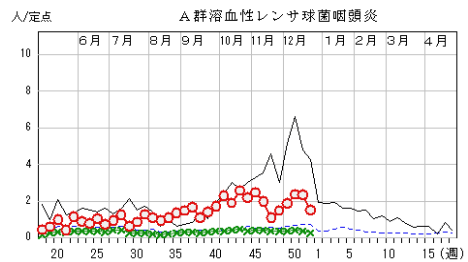
（1） 感染性胃腸炎

第52週の報告数は173人で、前週より4人少なく、定点当たりの報告数は3.93であった。
 年齢別では、1歳（48人）、2歳（26人）、3歳（20人）の順に多かった。
 定点当たり報告数の多い保健所は、県南保健所（8.80）、上五島保健所（8.50）、県央保健所（7.83）であった。



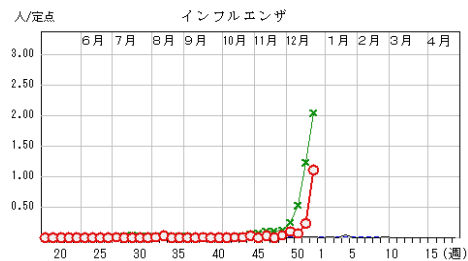
（2） A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

第52週の報告数は66人で、前週より37人少なく、定点当たりの報告数は1.50であった。
 年齢別では、5歳（10人）、2歳（8人）、10～14歳（8人）の順に多かった。
 定点当たり報告数の多い保健所は、県南保健所（12.60）であった。



（3） インフルエンザ

第52週の報告数は78人で、前週より62人多く、定点当たりの報告数は1.11であった。
 年齢別では、20～29歳（22人）、15～19歳（16人）、30～39歳（9人）の順に多かった。
 定点当たり報告数の多い保健所は、壱岐保健所（12.00）、上五島保健所（2.00）、県央保健所（1.20）であった。



○ 当年(長崎県) — 前年(長崎県)
 × 当年(全国) - - - 前年(全国)

☆トピックス・季節情報

【感染性胃腸炎】

第52週の報告数は173人で、前週より4人少なく、定点当たりの報告数は3.93でした。地区別にみると県南地区（8.80）、上五島地区（8.50）、県央地区（7.83）は他の地区より多くなっています。例年、年末年始に報告数が増加します。今後も予防に努めましょう。

本疾患は、細菌又はウイルスなどの病原微生物による嘔吐、下痢を主症状とする感染症です。原因はノロウイルスやロタウイルス、エンテロウイルス、アデノウイルスなどのウイルス感染による場合が主流ですが、腸管出血性大腸菌などの細菌が原因となる場合もあります。手洗いの励行とともに、体調管理に注意して感染防止に努め、早めに医療機関を受診しましょう。

【A群溶血性レンサ球菌咽頭炎】

第52週の報告数は66人で、前週より37人少なく、定点当たりの報告数は1.50でした。地区別にみると県南地区（12.60）の報告が多く、警報レベル開始基準値「8.0」を超えていますので注意が必要です。

本疾患の好発年齢は5歳から15歳で、鼻汁、唾液中のA群溶血性レンサ球菌を含む飛沫などによってヒトからヒトへ感染します。また、食品を介しての経口感染もあります。潜伏期間は約1日から4日で、突然の発熱（高熱）、咽頭痛、全身倦怠感、時に皮疹もあります。急性期患者の感染力は強いですが、適切な抗菌薬の投与により、多くは1日から2日後には症状も消失し、感染力も著しく低下します。不十分な治療は無症状保菌者を生じやすいため、早めに医療機関を受診するとともに、手洗いやうがいを励行し、感染防止に努めましょう。

【インフルエンザ】

第52週の報告数は78人で、前週より62人多く、定点当たりの報告数は1.11となりました。地区別にみると、壱岐地区（12.00）、上五島地区（2.00）、県央地区（1.20）は他の地区より多く、壱岐地区は注意報レベル基準値「10.0」を超えています。今後も動向に注意しましょう。

インフルエンザは、インフルエンザウイルスを原因とする気道感染症で、他の原因によるかぜ症候群より重症化しやすい傾向があります。感染経路は、咳やくしゃみによる飛沫感染と、飛沫等に含まれるウイルスが付着した手指で自分の眼や口、鼻を触ることによって成立する接触感染があります。1日から3日間の潜伏期間のあとに38度以上の発熱、頭痛、全身倦怠感、筋肉痛、関節痛などの全身症状が突然現れます。これに続いて咳、鼻汁などの上気道炎症が起こり、約1週間で軽快するのが典型的なインフルエンザの症状です。呼吸器、循環器等に慢性疾患を持つ方は、その病状が悪化することもあります。小さなお子さんの場合、熱性痙攣や気管支喘息を誘発することもあります。

インフルエンザワクチンは、発症及び重症化を一定程度予防する効果があります。ワクチンの予防効果が期待できるのは、接種した（13歳未満の場合は2回接種した）2週間から5か月程度までと考えられていますので、希望される方は早めにワクチンを接種しましょう。

★トピックス：県内がインフルエンザの流行シーズンに入りました

令和4年第52週の長崎県全体のインフルエンザの定点当たり報告数が「1.11」となり、流行開始の目安となる「1.00」を上回りました。全国でも第51週に流行シーズン入りしています。2019年以来の3年ぶりの流行シーズン入りとなり、今後本格的なインフルエンザの流行が懸念されます。

地区別では、壱岐地区（12.0）で、注意報レベル「10.0」を超えています。

今シーズンは、新型コロナウイルス感染症との同時流行にも注意が必要です。手洗い・手指消毒、適切なマスクの使用、換気などの基本的な感染対策を励行し、予防に努めましょう。

また、インフルエンザワクチンは、発症および重症化を一定程度予防する効果があります。希望される方は早めにワクチンを接種しましょう。

(参考)厚生労働省 インフルエンザ総合ページ(外部のページに移動します。)

https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/kenkou/kekkaku-kansenshou/infulenza/index.html

(参考)感染症対策室：長崎県 インフルエンザ流行期入りの発表

<https://www.pref.nagasaki.jp/shared/uploads/2023/01/1672971469.pdf>

長崎県におけるインフルエンザ報告数の推移

